

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 3 月 20 日

仕 事 の 内 容	市内道路改良事業（地域幹線道路の整備）			
担当部署・課長名	土木	課	土木	係 課長名 寺島 由紀夫

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施 策 番 号	4 - 4	-
【施策名】 道路・交通の整備	総 合 計 画 書 (ページ)	89	

予算名	款 8	土木費	項 2	道路橋りょう費	目 2	道路新設改良費	事業 1	市内道路改良事業費
-----	-----	-----	-----	---------	-----	---------	------	-----------

1	こ の 仕 事 の 目 的	❶ 誰（何）を対象にしていますか。	❶ ❶の対象数や量を、あらわすもの（対象指標）
		沿線住民及び通行者	→ 地域幹線道路 路線延長（一級路線）
		❷ ❶をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]	❷ ❷の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標）
		安全かつ快適な通行を図る。 沿線住民からの道路振動に対する苦情を解消する。	→ 整備路線延長（累計）
		❸ そのために何をしましたか。	❸ ❸をどのくらい行いましたか（活動指標）
		市内幹線道路の舗装補修整備や道路改良整備	→ 整備路線延長

2	指 標 の 推 移		単 位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標	
		対象指標	❶の数値	m	24,201.6	24,201.6	24,201.6	/	/
		成果指標	❷の数値	m	12,488.3	13,032.4	13,501.2	/	/
		目 標	❷の目標値						
		目標値設定の考え方							
		活動指標	❸の数値	1,181.6	544.1	468.8	/	/	

3	経 費	事 業 費（実績）		円	178,559,640	134,093,924	77,806,440	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外） 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。（退職手当組合負担金、共済費も含む。）
		財 源		円	126,169,640	100,783,924	62,216,440	
		一般財源		円	52,390,000	33,310,000	15,590,000	
		特定財源		円	0	0	0	
		（うち受益者負担）		円	0	0	0	
		人件費（目安）		人	0.5	0.5	0.5	
所要人数(再任用以外)		人	0.0	0.0	0.0			
職員人件費(再任用以外)		円	4,133,500	4,126,500	4,122,000			
職員人件費(再任用)		円	0	0	0			
事業費+人件費		円	182,693,140	138,220,424	81,928,440			

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4	環 境 変 化	この仕事の開始時期（開始年度）、何を目的に開始していますか。	
		開始時期：平成14年度から 目的：車両による舗装のわだち掘れ、亀裂、施工継ぎ目等の段差を改善するため。また、それらに伴う苦情件数を減らすため。	
		開始当初と比較し、状況の変化はありますか。	
		大型車両の交通量が増加	

仕 事 の 内 容	市内道路改良事業（地域幹線道路の整備）			
担当部署・課長名	土木	課	土木	係 課長名 寺島 由紀夫

5 市民等 の 意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について
	沿線住民や通行人から舗装を直してほしい等の要望が多く寄せられている。

6 市民 協 働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）	
	取組みは無い	取組手法
	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ）⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）	
(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点		

7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題（2）」の内容
	道路整備後数十年経過し、舗装の劣化が著しい。計画的な整備が必要であるが、単年度で施工する範囲や路線が限られてしまったため苦情も多い。 また、技術職員の世代交代がスムーズにいかなく、技術継承がままならないため、技術力も低下している上に人数も少ない。 ・早急に整備すべき箇所があっても翌年度以降に先送りしている。 ・整備すべき生活道路が多々あるが、幹線道路しか整備できない。 ・住民から整備要望があっても応急対応しかできない。
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。
	・市内道路の損傷状況を把握するための調査費用を実施計画に計上した。 ・補助金を活用し、幹線道路の補修を進めた。 ・比較的舗装劣化の少ない要望箇所は市民に説明した上で、舗装劣化の著しい箇所を優先的に補修した。
(3)(2)を踏まえた今後の課題	
労務単価や諸経費等の上昇により、当初予算の範囲では工事が追いつかない。	

8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など）		
	・舗装の劣化は車両や歩行者、自転車の事故を誘発するおそれがあるため、計画的整備に努める。 ・人不足、技術力不足を解消するために、技術職員の増員が必要である。		
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等		
	・現状の路面状況の把握 ・整備箇所の優先順位の決定 ・苦情、要望箇所の把握 ・整備路線の細分化による計画		
(3)改革・改善案による期待成果			
上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。			
成果	成果を向上させる。	経費	仕事の経費を増加させる。